

つれづれなるままに 第5号

令和元年7月14日（日）発行



校長 深谷 浩一

中央，コールド発進！ ～ 3番久保田の2点本塁打～



本塁打を放って生還した久保田

今年の本校の高校野球県大会予選は、7月13日（土）、笠間市民球場で行われた、2回戦、第一試合の東海高校戦で開幕しました。

それでは、試合の流れについて、本校の攻撃を中心にして、1回から順を追って振り返ってみます。

1回の中央の攻撃は、1番小堀（3年）のデッドボールや4番松井（3年）のフォアボールでランナー1，2塁としたものの5番永井（3年）がレフトフライに倒れ、2残塁で得点を挙げることはできませんでした。

2回の攻撃でも7番小沼（3年）、8番金敷（2年）がフォアボールを選び、チャンスを広げるも9番平塚（1年）はセカンドフライ、1番小堀がセンターフライに倒れ、再び二者残塁を喫してしま

いました。

3回に入り、やっと本校らしい、しぶとい攻撃が見られました。2番友部（3年）、4番松井がヒットで出塁すると、相手投手のパスボールで待望の初得点を挙げる事ができました。さらに、その後フォアボールで満塁にすると、さらに押し出しのフォアボールで追加点を挙げ、この回2得点。続く4回には、2番友部のショートへの強襲ヒットや5番永井のレフト前ヒットで1点、続くピッチャー佐藤匠（3年）のセンターへの犠牲フライで1点を挙げ、この回2点を加え、4-0とリードしました。

5回の攻撃は圧巻でした。8番金敷、9番平塚がともにヒットで出塁すると1番小堀はセンターへの犠打で1点を追加。そこで、3番久保田（3年）がランナーを3塁に置いてライトへの2ランホームランを放ち、7-0と東海を突き放したのです。さらに、6回にもフォアボールやパスボールで出塁すると7番主将の小沼（3年）のレフト前ヒットでダメ押しの8点目を挙げ、無失点のまま7回コールドでの勝利を収める事ができたのです。

本校がちょうどこの試合を行っていた頃、ジェイコム土浦では、次に本校と対戦することになる土浦日大が、茨城キリストを10-1の7回コールドで打ち破っていたのです。

本校の試合の様様については、翌日の茨城新聞に以下のような講評が掲載されていたので、最後にご紹介いたします。

「中央コールド」

【評】中央が攻守で力の差を見せつけ、東海に七回コールド勝ちした。

中央は三回、暴投、押し出し四球と相手投手の乱調に乗じて2点先制。四回には1死満塁から5番永井の右前適時打、6番佐藤匠の中犠飛で加点した。五回には3番久保田の2点本塁打も飛び出した。

東海はわずか2安打。四回は2死満塁と攻めたが、得点できなかった。

（令和元年7月14日付け茨城新聞7面より。）